

テーマ:

自然とのふれあい、友だち・親子の交流

福島県
いわき市立平第六小学校
坂本 悦子先生 笠間 千恵子先生
東谷 次男用務員



この活動の特徴



「凜々子」活用のポイント①

夏休み中の世話や
収穫した「凜々子」の調理などで
家庭を巻き込み栽培活動に励んだ

「凜々子」活用のポイント②

栽培活動や調べ学習の成果を
歌、ダンス、劇にして
学習発表会で発表した

活動のねらい



- 土に触れ、自然に親しむ経験をする
- 「凜々子」に関する調べ学習を通し、「ちびっ子野菜博士」を目指す

活動の概要と流れ

対象学年 : 2年生 (43名)
実践期間 : 4～10月

時期	学習活動
5月	・畑の準備、定植。観察開始
6月	・用務員さんと一緒に毎日の水やりや 草取りなどの世話をした
7・8月	・夏休み中は「『凜々子』当番」を決め、43家庭が2回ずつ 学校の畑に来て世話や収穫を行った。収穫した「凜々子」は 各家庭に持ち帰り、野菜サラダを作った
9月	・夏休み中に家庭で調理した野菜サラダについて 発表を行った ・栽培活動で得た知識に加え、本やインターネットで トマトについて調べ、トマトの栄養や「凜々子」の特長など についてまとめた新聞を作成した
10月	・栽培活動中の一コマや、調べ学習で得た知識などを 歌、ダンス、劇にして学習発表会で全校児童及び保護者 に発表した



ここがポイント！取り組みの工夫と実践の成果

🍷 用務員さんや保護者と一緒に取り組んだ「凜々子」栽培活動

これまで本校では鉢植えなどを利用して野菜栽培を行っていた。今年度からは畑での栽培活動に切り替え、用務員さんと一緒に雑草を抜き、畝を作るなどの畑の整備から始めた。

苗が届き、定植後の水やりや草取りなどの日々の世話も、用務員さんと児童と一緒に取り組んだ。

また夏休み中の世話は『凜々子』当番を決め、43家庭が2回ずつ畑に来て草取りや収穫作業を行った。収穫した「凜々子」は各家庭に持ち帰り「野菜サラダ」に調理してもらった。夏休み後には、家族で作った「野菜サラダ」について発表会を行った。

用務員さんや保護者の方々に手伝っていただいたお陰で、約1,400個の「凜々子」を収穫することができた。そして児童と用務員さん、また各家庭との交流も深めることができ、とても充実した栽培活動となった。

🍷 「凜々子」と過ごした日々を歌・ダンス・劇で表現

「凜々子」と触れ合った日々の一コマや、調べ学習を通してわかったことなどを歌・ダンス・劇にし、学習発表会で全校児童及び保護者に発表した。

「凜々子がいた夏」というタイトルで、劇で使うトマトの被り物

なども児童たちで手作りした。観劇した他学年の児童や保護者からは「とても素晴らしい発表だった」「栽培活動の苦労や楽しさが伝わってきた」などという感想をいただいた。また学習発表会後には、校内や保護者の間で「凜々子」という言葉が流行語になるほどだった。

「凜々子」の栽培活動を通して「自然に親しむ」「野菜について詳しくなる」「野菜栽培の苦労や楽しさを知る」ということだけではなく、「表現する楽しさ」も児童に実感してもらうことができた。

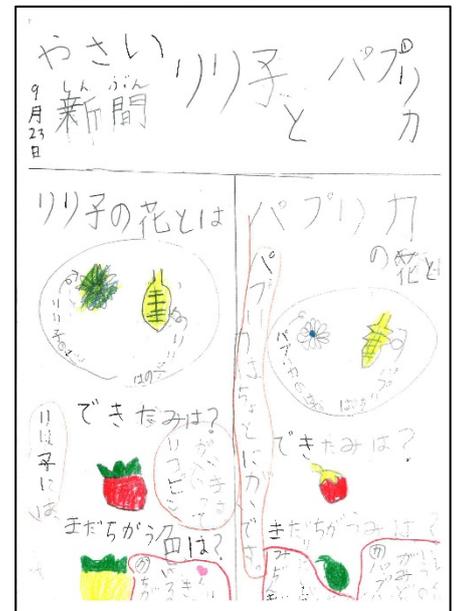
先生から一言！実践を通して

「凜々子」を育てていく中で児童たちは「凜々子」の葉、花、実、香り、色などが日々変化していく様子を、興味深そうに観察していました。栽培活動や調べ学習などで「凜々子」について詳しくなるにつれ、「凜々子」に対する愛着心が芽生えていきました。

また、リコピンの効用などトマトの栄養価について知り、トマトが嫌いだった児童もトマトを自ら進んで食べるようになりました。収穫した凜々子を給食時にみんなで味わい「自分たちで育てた『凜々子』は格別」ということを実感しました。

栽培活動や調べ学習、学習発表会などを通し、「凜々子」のことを知れば知るほど児童たちは意欲的

になっていきました。また、児童間はもちろん、用務員さんや保護者の方々との交流も活発になりました。



受賞理由

元気いっぱいの学習発表会の様子を拝見し、「凜々子」が学習に貢献できたことを実感しました。今回より畑栽培を開始され、広々とした畑で土に触れ「凜々子」を育てる喜びを感じられたことと思います。保護者の皆さんも活動に関わるなど、ご家庭との交流も活発となった素晴らしい取り組みでした。